

和地ひとみレポート No.323

旧日立航空機（株）変電所保存の基本方針を改定 保存の意義を広く市民に知らせる工夫も

■東大和市指定文化財

旧日立航空機株式会社変電所

…都立東大和南公園内にある旧日立航空機株式会社変電所を皆さんはご存知でしょうか。毎年8月に開催される“平和市民のつどい”は、この変電所前の『平和広場』で開催され、この集い当日には戦争の悲惨さや恒久平和の尊さを感じてもらうためにこの変電所内を公開しています。（今年は第15回。開催日時は8月17日土曜日14時～：集いの式典などは17時半～）

…この変電所の歴史は以下の通りです。

昭和13（1938）年、北多摩郡大和村（現在の東大和市）に東京瓦斯電気工業株式会社（翌年、合併により「日立航空機株式会社」となる）立川工場が軍用機のエンジンを製造する大きな軍需工場として建設される。

工場は拡張を続けながら操業し、昭和19（1944）年には、従業員数13,000人を数えるほどの規模となる。工場の北西部にある変電所は、高圧電線で送られてきた電気を減圧し、工場内へと送る重要な施設だった。

太平洋戦争末期になると、軍需工場が集中していた多摩地域は、数多くの空襲を受けることとなり、この工場でも昭和20（1945）年の2月17日、4月19日、4月24日に受けた3回の攻撃で、工場の従業員や動員された学生、周辺の住民など100人を超える方が亡くなった。4月24日の空襲では、工場は8割方壊滅したといわれている。変電所も窓枠や扉などは爆風で吹き飛び、壁面には機銃掃射や爆弾の破片による無数のクレーター状の穴ができたが、鉄筋コンクリート製の建物本体は、致命的な損傷をうけなかった。

終戦後、工場はスレートや編み物機の製造など平和産業に転換し、自動車会社との合併や社名変更などを行いながら、平成5（1993）年まで操業を続けた。その間、変電所は主要設備機器の更新をしながら、工場へ電気を送り続けたが、外壁に刻まれた生々しい爆撃の傷跡や内部の一部にも痕跡を残したままの状態が使われていた。

平成5（1993）年、変電所を含む工場の敷地は、都立公園として整備されることになった。

しかし、地域住民や元従業員の方々の強い要望により、変電所の建物はそのままの場所で保存されることに。そして、東大和市はこの変電所を平成7（1995）年10月1日に文化財に指定し、後世に伝えることにした。

■保存のために

…平成7年に東大和市指定文化財となったこの変電所ですが、築約80年の古い建物であると同時に、爆撃を受けたこともあり、保存のための保存修理をする必要があります。市は昨年「旧日立航空機株式会社変電所保存の基本方針」を策定しましたが、今年、5月には改訂版を策定しました。



…市は、平成29年度にこの変電所の現地調査を委託により実施。建物の状態などを調査した結果報告書を受けて、『耐震補強方針』を“一般的な建物の耐震基準には適合できないので、既存不適格建物の特例として認められている「構造上危険性が増大しない構造補強設計」として工事を行う”ことと決定し、その方針に沿って基本方針を策定していましたが、今年度の改定では「変電所内部の公開を前提とするため」①耐震補強の検討と②現在の状態での保存をより優先させることとしました。

…また、改定前は保存のために係る事業総額が2億6,369万円だったのに対し、改定版で示された事業総額は1億3,100万円。改定により事業総額がおよそ半分に減額されています。このことから、補修工事の内容が大幅に変更されたことが分かりますが、その主な変更点は以下の通りです。

【主な保存修理工事の内容の変更】

◆屋上防水改修

（旧）既存防水を撤去し、劣化部分をはつり取り、修復をおこなった後、今までシートでおこなっていた防水を、金属板葺きに変更する。

（改定）屋上においても原形保存を優先し、耐用年数が長い塗膜防水を施す。

◆外壁補修

（旧）基本的に前回工事の工法（アンカーピンで固定エポキシ樹脂の接着と同じ方法とする）。

（改定）モルタルの各塗り層間にある浮きの接着や防錆処理等を概観に大きな影響が出ないように再度処置する。

◆内装工事

（旧）2階のみ、構造躯体補強工事で新しいモルタル塗りになった上から、ペイント（模写）して古く見せる。稼動時（平成5年）の様子を模写するが、詳細な再現までは求めない。

なお、可能であれば内壁を一部、現状保存する。それ以外にも補強設備（新たな柱や壁）が必要となる場合は、内装変更は可能とする。

（改定）旧内装や旧設備が残る2階は、現状保存を目指して検討する。なお、旧内装がすでに失われている1階は、耐震補強や展示を考慮しつつ、柔軟な対応ができるものとする。

（裏面に続く）

◆階段

(旧) 2階公開後は、見学者の昇降は外階段でおこなう。現在の外階段は踏み場が狭く昇降しにくいいため、新たな昇降用階段を現在の階段の上に設置する。耐震設計上問題ないこと、避難経路として使用すること、外壁に触れないようにすることを前提とし、手すり部分は、外壁同様そのままの形で保存し、階段床スラブ（踊り場）は、雨漏りがあるためモルタル撤去し、コンクリートのヒビ割れ補修する。また、ステップ部分は、爆撃による破損ではないが、現状のまま保存する。
内階段は見学者の昇降は行なわない。爆弾痕は外壁、全体は内壁の仕様に準じる。

(改定) 外観の現状保存のため、外階段は現状のまま保存し、公開時は内部階段を使用する。ただし、内部階段は保存対象であるうえ、使用には危険性があり、そのまま使用できないため、既存の階段に新たな部材を付加する形式を検討する、新たな部材は旧状が見えるよう透明な部材を使用する等の工夫をし、取り去れば旧状に復することができるものとする。

…このほかにも、窓枠や雨どいや外構、建具、電気設備などについての保存修理の方針が示されている基本方針ですが、今回の改定では「耐久性よりも現状の保存を優先」していることが分かります。

■財源は

…今回の改定で、1億3,100万円程度の費用を見込んでいる保存のための事業費ですが、その財源については、市は特定目的基金（目的をもって資金を積み立てる）として『旧日立航空機株式会社変電所基金』を設け、保存のために必要な財源を確保しています。平成29年度決算で示されたその状況は以下の通りです。

(単位：千円)

平成29年度末残高	平成30年度（見込み）			平成31年度（見込み）		
	積立額	取崩し額	年度末残高	積立額	取崩し額	年度末残高
6,387	6,923	0	13,310	7,041	0	20,351

…この基金に積み立てられているお金は、ふるさと納税でこの事業に賛同して寄付をしてくださったお金と、市の一般財源からのもの。市では、この事業についてはふるさと納税を大いに活用して財源を確保しようとしており、その寄付の目標額は2億円としています。

…市のホームページによると平成28年10月から平成30年11月までの間、この事業に対しふるさと納税で寄付をしてくださった方は296名、合計金額766万128円となっており、目標金額の2億円には程遠く、また、市の一般財源を加えた基金の合計金額も約2000万円という見込で、今回の改定で前回より半額になった事業費の1億3,100万円にも届いていない状況です。

■ふるさと納税がなかったら…

…ふるさと納税は返礼品目当てとなっていることが問題となっていますが、東大和市のこの事業への寄付に対しての返礼品はなく、「寄附者が希望した場合には、変電所に備える寄附者名簿に寄附者の氏名又は団体名及び寄附金額並びに応援メッセージがあるときにはその内容を記載させていただきます。」としています。このような考えでふるさと納税を活用したいという市の考えは理解できます。

…市は、以前「西の原爆ドーム、東の変電所」というフレーズを良く使っていましたが、この原爆ドームの保存は、ふるさと納税がない頃から行われています。広島市のHPによると、原爆ドームの今までの保存工事の費用とその内訳は以下のとおりでした。

- ・第1回保存工事：昭和42年（1967年）
工事費：5,150万円（全額募金で充当）
- ・第2回保存工事：平成元年（1989年）
工事費：2億378万円（うち募金で1億円を充当）
- ・第3回保存工事：平成14年（2002年）
工事費：7,237万円（うち広島市原爆ドーム保存事業基金で3,625万円を充当）
- ・第4回保存工事：平成27年（2015年）
工事費：3,296万円（うち広島市原爆ドーム保存事業基金で1,963万円を充当）

…世界遺産に登録されている原爆ドームでさえも寄付が年々減少しているようですが、保存の意義に賛同した企業やスポーツ団体などからの寄付は継続されています。一方で、昭和42年の第1回保存工事の際は、当時の広島市長が街頭に立って自ら募金活動を行ったとのこと。現在は、原爆ドーム保存のために広島市もふるさと納税を活用していますが、東大和市も、もし、ふるさと納税がなかったら大々的に募金活動をするのか…。やはり、多くの方に保存の意義に共感してもらえることが資金集めでは重要だと感じます。

■活用方針は

…今回の改定で示された変電所の活用方針は「安全性の確保のため耐震診断と耐震補強設計の検討結果を踏まえて改めて方針を検討」としているものの「建物内部の公開が可能と判断された場合においても、施設の貸し出し等は行わず、博物館主催もしくは共催の展示、イベントで活用することとする」としています。…実は原爆ドームでさえも保存の賛否があったように、この変電所についても「軍需工場だったから」ということで保存に懸念を示している人もいます。しかし、取り壊してしまえば、このような古い建造物は復元することは不可能なのも事実です。市の財源を活用せざるを得ない事業なら、より多くの市民の賛同が得られるよう、市は今まで以上に保存の意義と変電所の活用を市民に伝えていく必要があると思います。

市政、議会について「自然体」「ざっくばらん」にレポート。駅前配布するレポートは毎回、最新号です。

【プロフィール】「私たちの身近にある市政、市議会。伝えることがスタートだと思います。」



1970年 東京都北区生まれ。父の転勤で1歳から群馬県で育つ。幼稚園からカギっ子。リーダーシップを発揮し、小学校で児童会長、中学校でも生徒会長を務める。大好きな音楽を究めようと武蔵野音楽大学に進学、卒業。卒業後は群馬の山あいの小学校で臨時教諭として担任を2年勤め、新しい試みで授業を活性化させ「元気印の先生」として保護者・生徒から親しまれた。学校外の一般社会で挑戦しようとベンチャー企業の(株)シートゥーネットワーク（※スーパーマーケットを経営。店頭公開から一部上場、外資系企業に転換）に社長秘書として入社。のち店舗現場に異動、同社で初の女性店長となる。月刊誌『日経WOMAN』のベンチャー企業で活躍する女性特集で取り上げられる。その後、人材開発部長を拝命。『人を活かす』経営を学ぶため一念発起しカナダに留学。外から見た日本の将来に、漠然とした不安を感じる。帰国後は、不動産投資会社にて企画業務、税理士対応、広報、社員研修、組織活性化などに従事。2011年4月、初当選。現在3期目。顔の見える議員として、日々奮闘中。

東大和市 市議会議員

和地 ひとみ

■ 連絡先 和地 ひとみ事務所 HP : <http://www.wachi1103.jp>

✉ wachi_hitomi@cocoa.ocn.ne.jp 【電話・FAX】 042-516-8546

〒207-0005 東大和市高木3-274-2-102